

CASBEE京都-新築(2011年版)
東急ハークエストクラブ 鷹峯P棟

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.2
1 音環境								3.5
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								3.0
2.1 室温制御								
1 室温								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								3.0
3.1 昼光利用								
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)				
2 方位別開口				●自然 B(推奨内容)				
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)				
3.2 グレア対策								
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)				
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								3.5
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量				●自然 A(全国版準用)				
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								2.8
1 機能性								2.9
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応				●大切 D(独自基準)				
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点)				
2 リフレッシュスペース				●とも D(独自基準)				
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								2.8
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					2.2	0.19		-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.5	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					4.2	0.05	2.0	0.50	
1	階高のゆとり				5.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	地下駐車場の天井高4mを確保し緊急車両へ配	3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.05	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.89		-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.32	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制					2.3	0.25		-	2.3
2 自然エネルギー利用					3.5	0.22		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光パネルを設置している	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化					4.4	0.32		-	4.4
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=23.7%	4.4				
集合住宅の評価					3.0	0.22		-	3.0
4 効率的運用					3.0	0.50		-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63		-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68		-	
1	消火剤				-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3	冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮					2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制			敷地内に十分な駐車場を確保、公道からの引き	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					2.8	0.33		-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音				3.0	0.33		-	
2	振動				3.0	0.33		-	
3	悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					2.3	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる